掘師会 2022 年新春会報

（日本における地下掘削の技術向上並びに継承するために設立された会）

一般社団法人掘師会
東京都練馬区大泉学園町
理事長 内山 剛

1．理事長挨拶

2020 年コロナ禍、志を持った皆様と一般社団法人掘師会を立ち上げることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

昨年中のオンライン意見交換会では多くの御提言をいただき感謝しております。より多くの皆様とともに、ボーリング技術のスキルアップを図っていきます。

引き続き皆様の御協力をお願い申し上げます。　　内山 剛

2．掘師会新年会開催報告

開催日	2022 年 1 月 8 日	場所	名古屋飲食店	参加者	会員及び地質調査事業者様
内容	主な議題 ・ボーリング機材を搭載するトラック納車期間が長く、機動的な事業拡大が難しい状態。 ・その他、ガソリン価格上昇、各種資材の値上げ傾向もコスト増加要因に。 ・技術力が高いほど、ボーリング単価も高くなる傾向にある。 ・掘師会加盟社は、一定のスキルを有し、安定的な受注傾向にある様子。 ・顧客要望に応え続けるため、ボーリング技術のスキルアップが欠かせない。				

3．本年の活動計画

コロナ禍、活動が制限されている状態のため、当面は、オンライン会議による情報交換を行っていく。

活動制限が解除された段階で、以下のような勉強会を実施していきたい。

（1）「ボーリングツール」メーカーの工場見学会

（2）技術勉強会

4．スキルアップ勉強会

密を避けるため、ウチヤマ地質工業内で少人数による勉強会を開催した。

今後、これらの勉強会も掘師会の皆様と取り組んでいきたいと考えています（内山理事長）。

＜2021 年ウチヤマ地質工業内の主な勉強会＞

2021 年	勉強会の内容
2 月	フルハーネス社内講習会
6 月	熱中症を含めた安全対策勉強会
4～7 月	地質調査技士試験勉強会
8～12 月	技術士 1 次試験勉強会

5．トピックス

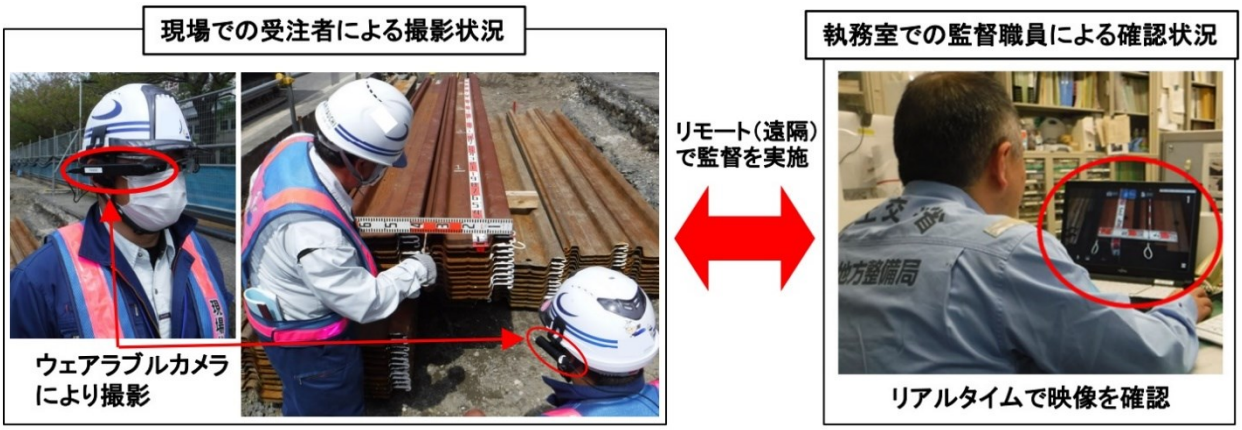
始まっている建設現場の遠隔臨場。ボーリングにも遠隔臨場。

ここでは、建設現場の遠隔臨場を見ながら、ボーリング事業者への影響を探っていく。

1．「建設現場の遠隔臨場」とは

建設現場を Web カメラで動画撮影し、離れたところからリアルタイムで建設状況を確認することである。(写真「建設現場の遠隔臨場」参照)

＜写真：建設現場の遠隔臨場＞



出所：2022 年 1 月 12 日国土交通省関東地方整備局記者発表資料から抜粋

2．建設現場の遠隔臨場の普及の可能性

2022 年 1 月国土交通省関東地方整備局の発表（以下、「国交省関東発表」）によると、関東地方整備局管内で遠隔臨場を実施した建設現場は前年比 2.6 倍の 428 件であった（2021 年 10 月末時点)。遠隔臨場を受注した工事事業者アンケートによると、97%の事業者が次年度も遠隔臨場を希望している。理由は、工事段階のチェックを受けるための待ち時間の短縮等である。遠隔臨場は工事事業者にメリットがあって、動画通信技術も普及しているため、建設現場の遠隔臨場は普及していくであろう。

3．地質調査の遠隔臨場

「国交省関東発表」によると、地面を掘る工事の遠隔臨場では、土の色味や粒の大きさの変化を確認し難く、現時点では掘削工等は遠隔臨場の対象外としている。国土交通省関東地方整備局へ取材したところ、ボーリング事業者が掘削した深さを確認するための遠隔臨場はスタートしている。ボーリングにおいて、詳細な土質確認では遠隔臨場を使えなくても、出来高確認には遠隔臨場は使える。

4．ボーリング事業者にとっての遠隔臨場

建設現場、地質調査において、遠隔臨場は普及するであろう。ボーリング事業者にとっても、遠隔臨場は避けて通れないものであり、遠隔臨場の準備は待ったなしだ。

参考文献：2022 年 1 月 12 日国土交通省関東地方整備局記者発表資料

執筆：2022 年 2 月 8 日　小島康（中小企業診断士）

編集：掘師会事務局（合同会社ココジマ）